

# 会 誌

第 23 号

昭和 58 年 8 月

卷 頭 言.....小林 貞 作 1

研 究 発 表

1. 富山湾東南沿岸で魚礁として利用される  
非造礁性サンゴ群集について.....堀 井 直二郎 3

2. ユキノシタ科植物の訪花昆虫.....田 中 忠 次 13

3. 富山県内のスミレについて第1報.....塩 谷 佳 和 30

4. 富山県産シダ植物雑記3).....大 島 哲 夫 35

5. 食肉類の菌についての雑録.....坂 下 栄 作 41

6. 富山県における天然記念物指定植物と  
代表的植物群落の分布及びそれらの特徴.....本 多 省 三 45  
本 多 啓 七

本 会 記 事.....71

編 集 後 記.....72

## 富山県生物学会

23

## 巻 頭 言

会 長 小 林 貞 作

最近の新聞紙上には、生物工程（生命工学、バイオマス）あるいは遺伝子工学という活字が頻繁に見られるようになった。これらはともに先端科学技術とも呼んでいる。これは大変よろこばしいことであって、このような生物科学時代に入ったのも、基礎生物学としての分類・形態・生態・生理および遺伝の各研究分野が、ある程度充実、定着した結果とみてよいのではなかろうか。

すなわち、これらは現在までの研究成果に立脚した生物工程であり、遺伝子工学なのである。これらの工学という名称は、原理の応用を意味し、人類にとって利用できる福祉的な価値を与えるもの、例えば、食品、医薬品などの製品となって市場にでてくることになる。このように、現代生物学の進歩には目ざましいものがあり、これから一日ごとに速度を変えてさらに進歩していくに違いない。それには、何と云っても基礎生物学を現在以上に重要視されていくだろう。

上記の意味において、このたび本会誌23号をここに発刊する運びに至ったことは、まことに重要な意義をもつものである。ここに心からこの発刊を祝福すると共に、決意を新たにして、本学会の研究活動を無限に続くものとの認識のもとで、本学会の発展のため、いっそうのご協力を切に願います次第である。

## 巻 頭 言

会 長 小 林 貞 作

最近の新聞紙上には、生物工程（生命工学、バイオマス）あるいは遺伝子工学という活字が頻繁に見られるようになった。これらはともに先端科学技術とも呼んでいる。これは大変よろこばしいことであって、このような生物科学時代に入ったのも、基礎生物学としての分類・形態・生態・生理および遺伝の各研究分野が、ある程度充実、定着した結果とみてよいのではなかろうか。

すなわち、これらは現在までの研究成果に立脚した生物工程であり、遺伝子工学なのである。これらの工学という名称は、原理の応用を意味し、人類にとって利用できる福祉的な価値を与えるもの、例えば、食品、医薬品などの製品となって市場にでてくることになる。このように、現代生物学の進歩には目ざましいものがあり、これから一日ごとに速度を変えてさらに進歩していくに違いない。それには、何と云っても基礎生物学を現在以上に重要視されていくだろう。

上記の意味において、このたび本会誌23号をここに発刊する運びに至ったことは、まことに重要な意義をもつものである。ここに心からこの発刊を祝福すると共に、決意を新たにして、本学会の研究活動を無限に続くものとの認識のもとで、本学会の発展のため、いっそうのご協力を切に願います次第である。